

基礎配属〈CT〉

教育担当者

基礎医学講座、人体病理学講座、先端医学研究所研究部および共同利用施設の教員。

I 一般学習目標

基礎医学教室に所属して、幅広い科学的視野と洞察力を身につけるとともに知的向上心を養うために、医学を支える基礎的研究の進め方を理解する。

II 個別学習目標

各テーマ毎に提示する。

III 教育内容

研究テーマと担当教室は別途掲示する。

VI期（320時間）

IV 学習および教育方法

数名のグループに分れて、テーマを選択した上で基礎医学講座（解剖学(1)(2)、生理学(1)(2)、生化学、薬理学、病理学、微生物学、法医学、衛生学、公衆衛生学）、人体病理学講座、先端医学研究所研究部（分子医学、生体調節機構、遺伝子制御学）及び共同利用施設（RI実験施設、中央研究機器施設、動物実験施設）に所属し、実習、セミナー、論文読解など総合的に行われる授業（320時間）を受ける。また、希望者の中から選抜された数人の学生は、国際交流センターからの支援を受けて、米国、香港、中国、タイ等に短期留学して研究指導を受けることもできる。その他、大学が認めた国内外の研究機関においても、同様の研究指導を受けることができる。

V 評価の方法

別表のとおり。

VI 推薦する参考書

テーマ毎に提示する。

(別表) 評価の方法について

教室名	評価方法
生理学 1	自主的に研究に参加する姿勢を重視する。抄読会、討論会での発言内容、積極性により合否判定を行う。1回以上の無断欠席、および2回以上の遅刻は不合格とする。
生理学 2	1. 出席態度を重視する。無断欠席・無断遅刻等の多い学生は、単位認定しない。 熱心に研究に取り組む姿勢を評価する。 2. 自らアイデアを考え、自ら論文(時には英語論文)を調べ、自ら熱心に実験していく姿勢を評価する。 3. 今までの基礎配属の学生は、生理学会の地方会、全国学会で第1演者として発表した。このような積極性、プレゼンテーション力も評価する。
解剖学 1	第一解剖の基礎配属の期間中の出席を当然として、無断欠席は認めない。 学習態度と実技の習熟度を50%として、報告書を50%として判断する。
解剖学 2	出席10%、学習態度10%、コミュニケーション能力10%、情報収集・分析能力10%、論文読解能力10%、プレゼンテーション能力10%、実技の習熟度10%、論理的思考の実践10%、他の意見に対する建設的批評10%、報告書の作成10%で評価を行う。
生化学	最終成績は、出席点(40%)、学習態度、実技の習熟度(40%)、報告書(20%)の総合点で評価し、60点以上を合格とする。配属期間中の出席が2/3に満たないものや無断欠席は単位を与えない。
病理学	出席を重視し、学習態度、実技の習熟度および報告書によって判断する。
人体病理学	与えたテーマへの取り組みに対する、自主的、自立的、自律的な態度を重視する。行うべき事項(抄読会、研究発表会、報告書作成など)に積極的に参加しない場合や無断欠席をした場合は不合格とする。
薬理学	出席を重視し、学習態度、実技の習熟度および報告書によって判断する。 配属期間中の無断欠席者には単位を付与しない。
微生物学	研究を行う態度、必要な基礎知識に対する学習態度と実技の習熟度を50%、研究結果をまとめ作成した報告書を50%で評価する。
法医学	出席を重視し、学習態度、実技の習熟度および報告書によって判断する。
衛生学	積極的な姿勢・態度40%、出席50%、成果発表会10%で評価する。
公衆衛生学	研究に臨む姿勢、態度、期間中の出席を50%、報告会の発表を30%、報告書を20%として評価を行う。なお、出席率が2/3に満たないものには単位を与えない。
公衆衛生学 (地域医療支援センター)	出席と研究に取り組む姿勢及び地域での調査や実践現場に臨む態度を50%、研究成果の中間発表会での報告内容・質疑応答と学術集会等で成果公表を30%、研究における倫理的課題の理解とデータ等研究資料の取り扱いを10%、報告書を10%で評価する。
遺伝子制御学	出席を重視し、学習態度、実技の習熟度および報告書によって判断する。
分子医学	出席を重視し、学習態度、実技の習熟度および報告書によって判断する。
生体調節機構	出席を重視し、学習態度、実技の習熟度および報告書によって判断する。
RI 実験施設	出席40%、実験への参加状況20%、研究報告書作成40%で評価する。なお、出席が2/3に満たない場合(病欠、不責事由等は除く)は不合格とする。
中央研究機器施設	出席40%、学習態度20%、実技の習熟度10%、報告書30%で評価する。
動物実験施設	1. 出席、少なくとも80%以上。遅刻2回で欠席1回とカウントする。 基本的には午前9時～12時は必ず動物実験施設において、実験、論文の翻訳、資料収集、データのまとめを行う。実験によっては午後、夜間に実施することもあるが、その場合必ず教員もしくは代理の監督者が随伴するものとする。 実験は多くの場合短時間に済むものの、長期に亘ることが多いので配属先が決まった時点で昼休みもしくは放課後に実験を開始することがあるが、それについても出席点に入れる。 2. 実験に積極的に関わること。 3. 論文の翻訳を提出すること。 4. レポートのまとめ、提出。レポートは完成するまで修正を行う。